

---

**会 告**

---

**会費納入についてのお願い**

昭和 39 年分会費の納入期がまいりました。会費は下記参照 4 のとおり、毎年12月に1年分を前納することになっております。綴込みの振替用紙にて下記によりお払込みくださるようお願いいたします。

また、ご都合で弊会の下記取引銀行へお振込み下さいましても結構でございます。

なお 39 年より参照 5 を、強化することになりましたのでご注意ください。重ねてお願いいたします。

**記**

**正会員会費 2,000 円、学生会員会費 1,200 円**

**宛先 東京都千代田区丸の内1丁目1番地交通公社ビル**

**社団法人 日本鉄鋼協会**

**振替貯金口座 東京 193**

**取引銀行 三菱銀行鉄鋼ビル支店、第一銀行本店、住友銀行東京支店、  
東海銀行丸の内支店、日本勧業銀行東京駅前支店**

**参 照**

1. 定款第11条 正会員は、理事会の承認を経て入会するものまたは団体であつて、入会金 200 円および年会費 2,000 円を納めるものとする。(昭和38年10月 臨時総会において可決)
2. 定款第12条 学生会員は、理事会の承認を経て入会する学生であつて、入会金 100 円および年会費 1,200 円を納めるものとする。(昭和38年10月 臨時総会において可決)
3. 定款第13条 外国会員は、理事会の承認を経て入会する外国在住のものまたは団体であつて、入会金360円、および年会費 3,600 円を納めるものとする。(昭和38年10月 臨時総会において可決)
4. 定款施行細則第16条 会費は毎年12月に1年分を前納しなければならない。ただし、毎年12月および6月の2回に分け、おのおの6カ月分を前納することができる。
5. 定款施行細則第16条 会費滞納3カ月におよぶものには、会員の資格を停止し、会誌の発送を中止することがある。

**会誌号数変更についてのお知らせ**

さきに会誌第12号(11月号)会告にて、共同研究会帯鋼分科会報告書を会誌鉄と鋼第13号臨時増刊号として11月下旬に刊行する旨お知らせいたしました。印刷作業上の都合により予定を変更第14号臨時増刊号として12月下旬に刊行することになりました。また当初予定の第14号(12月号)は1号繰上げ第13号(12月号)として刊行いたします。会員各位にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください。お詫び方々変更のお知らせを申し上げます。

## 製鉄部会報告書別冊

## 『各製鉄所における製鉄設備の展望』発行について

さきに「鉄と鋼」第49年第9号臨時増刊号として、共同研究会製鉄部会報告書「製鉄技術の進歩」を発行、会員全員に無償配付いたしました。同報告書に関連して、昭和37年10月1日現在の各製鉄所における製鉄設備の全般にわたり、工場配置図、設備諸元表、フロシート、稼働状況、一覧表を内容とした、わが国における製鉄設備の現状が把握できる貴重な資料を収録、また製鉄部会で決定した高炉作業月報様式および記載方法を付記した標記資料篇を編集発行いたしましたことは「鉄と鋼」第49年第12号会告にてご案内いたしました。多少残部がありますので、ご希望の方は料金同封のうえお申込み下さい。

記

- 頒 価 1部 1000円 (送料とも) B5版 254ページ  
 申込方法 「製鉄別冊」と明記のうえ、代金を添えてお申込み下さい。  
 (現金書留、定額小為替、振替いずれでも結構です)  
 申込先 東京都千代田区丸の内1の1 日本交通公社ビル  
 日 本 鉄 鋼 協 会

## 第1回理工学における同位元素研究発表会

## 論文募集のお知らせ

本会ほか37学協会共催で、標記研究発表会を下記の通り開催いたします。これは異つた専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究ならびにその技術の基礎となる研究の発表と討論を行ない、各専門分野間の知識と技術の交流を図る目的で開催されます。研究発表論文の募集を行なっておりますので、ご希望の方は奮ってご応募下さい。

記

- 会 期 昭和39年4月21日(火)～23日(木)の予定  
 会 場 東京大学  
 発表論文 内容はそれぞれの研究分野において、その専門的成果を得るにいたつた同位元素および放射線の利用の技術に重点を置いた論文と、同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とする。なお得られた専門的成果の報告も差支えない。研究の内容には少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とする。発表時間は1件15分以内とする。  
 発表者の資格 共催所属学協会の会員  
 発表申込 所定の申込書(1件1通)により昭和39年2月10日(月)まで必着するようお申込み下さい。申込書は下記にご請求下さい。  
 講演要旨 講演要旨集を発行する。発表申込があり次第所定の原稿用紙(1,200字程度)を送付するので昭和39年2月28日(土)までに必着するよう下記にご送付下さい。  
 発表申込先 東京都文京区駒込上富士前町31(理研内) 日本放射線同位元素協会内  
 講演要旨送付先 理工学における同位元素研究発表会運営委員会 電話 東京 (981) 4166 (代)

## 第回原子力総合シンポジウム開催について

標記シンポジウムが日本原子力学会、本会ほか23学協会共催のもとに開催されます。会員多数ご参加下さるようご案内申し上げます。

### 記

1. 期 日 昭和39年1月12日(水), 13日(木)
2. 会 場 東京都千代田区神田錦町 3-28 学士会館 2階 大集会室(A会場) 北大食堂(B会場)
3. 共催学協会 日本原子力学会, 日本鉄鋼協会ほか23学協会  
 詳細についてのお問い合わせは, 運営委員会 (東京都港区田村町 1の1 東電旧館  
 日本原子力研究所内 日本原子力学会気付 (電 591-5489) へ直接ご連絡下さい。

### プ ロ グ ラ ム

#### 第1日 2月12日(水)

A会場(大集会室) 9:30~16:00

講演 (9:45~12:30)

世界の原子力船開発状況とわが国の計画  
 高速炉開発の現況  
 増殖炉と日本の資源

原子力委員 石川 一郎  
 原 研 杉本 朝雄  
 電力中研 高橋 実

総合講演

放射線損傷

- 1) 金属の放射線損傷
- 2) 半導体と絶縁材料の放射線損傷
- 3) セラミックス燃料中のFPの挙動

東大理 鈴木 秀次  
 阪大工 犬石 嘉雄  
 原 研 矢島 聖使

#### 第2日 2月13日(木)

B会場(大集会室) 9:30~15:00

講演 (9:30~10:30)

R.I. 製造の現況とその計画

原 研 木村 健二郎

討論会 (10:40~12:30)

原子炉の熱設計上の問題点

総合講演 (13:30~15:00)

最近の原子力計装

- 1) 原子炉計装
- 2) 半導体検出器

原 研 天野 昇  
 理 研 一宮 虎雄

B会場(北大食堂) 9:30~15:40

討論会 (9:30~12:00)

使用済み燃料の輸送と処理

講演 (13:00~15:40)

JPDRの建設と運転計画

原子力発電と電力系統

原子力地下発電所

原 研 平田 穰  
 東 電 脇坂 清一  
 京大・工研 高橋 幹二

## 計算制御の実状と問題点に関するシンポジウム 開催のお知らせ

本会では計測自動制御学会、日本機械学会と共催で、標記シンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムは、計算制御が考えられてから今日、ようやく実用化の段階に入りつつありますが、わが国工業の現実面で実際の計画、設計、保守、運転をとおして、その限界、有効性、故障率および問題点などを具体的に論ずべきときと思います。

計算制御の内容は対象のプロセスにより異なってくるので、本シンポジウムではプロセスを大別してそれぞれの専門分野の経験者からその実状と問題点について講演および討論をしていただき、今後の健全な発展に役立たせようとするものであります。

この方面に関心のある会員には下記プログラムをご覧のうえ奮つてご参加下さるようご案内いたします。

### 記

と き	昭和 39 年 1 月 28 日 (火) 9・25～16・30
場 所	全ラ連会館大講堂 東京都文京区湯島三組町 74 電話 (831) 6824
定 員	200 名 (先着順)
聴 講 料	200 円
申込方法	「はがき」大の用紙に「計算制御シンポジウム」と題記、氏名、勤務先 (名称、所属部課名、所在地、電話)、住所 (電話)、連絡先、所属学会名を明記のうえ、聴講料を添え申込むこと。
申 込 先	東京都港区芝琴平町 20 計 測 会 館 計測自動制御学会 電話東京 (501) 1917, 振替口座 127,863 番

### プ ロ グ ラ ム

時間	題 目	講師およびメンバ (敬称略)
9・25	開 会 の 辞	東京大学工学部 菅 野 猛
9・30	1) プロセス計算制御について	東京大学生産技術研究所 沢 井 善三郎
10・00	2) セメント工業における計算制御	秩父セメント株式会社 中 川 東一郎
10・50	3) 鉄鋼工業における計算制御	
	3・1 製銑・製鋼	日本鋼管株式会社 中 村 昌 平
	昼 休 み (1時間)	
12・40	3・2 圧 延	川崎製鉄株式会社 大 島 真
13・30	3・3 集 中 管 理	富士製鉄株式会社 吉 谷 豊
14・20	4) 自動車工業における計算制御	東洋工業株式会社 山 崎 芳 樹
	休 憩 (10分)	
15・20	5) 討 論 会	座長 菅 野 猛, メンバ各講師, 司会者 寺 野 寿 郎
16・30	閉 会 の 辞	東京工業大学理工学部 寺 野 寿 郎